

『鳥の巣の本』 絵本図鑑シリーズ
鈴木まもる 文・絵 岩崎書店 (1999年4月)



西緑地の草刈り
をしている時、目
の前の木の枝に、
小枝をいっぱい
敷きつめたお皿
のようなものが
ありました。鳥の
巣のよう・・・だ
けど、それにして

はあまりにもおおざっぱでいい加減な作り
です。

「これ、鳥の巣でしょうねえ」「手にとると
壊れそう。下手つくそで、作り直してあげ
たいわね」などとおしゃべりが弾みました。
帰宅して『鳥の巣の本』で調べると、どう
やらキジバトの巣のようです。ほかの鳥は、
巣をキッチリときれいに作るのに、どうい
うわけか、キジバトは小枝を適当に重ねた
だけの簡単な巣を作るのです。雄が枝を運
び、メスがそれを重ねて巣を作るそうです。

『鳥の巣の本』では、このほかにもいろい

ろな鳥たちの巣が、鈴木まもるさんのあた
たかい絵で描かれています。

身近にいっぱい鳥がいても、その巣を見つ
けるのはむずかしい。それは、おかあさん
が、敵に見つからないように、上手に隠し
ているから。でも冬になると葉が落ちて、
巣を見つけるチャンスかもしれません。

メジロ、エナガ、ヒヨドリ、西緑地では、
いつも鳥たちに出会えます。だから鳥の巣
がきっとどこかにあるはずなのですが、見
つかるでしょうか・・・探してみましょう。
見つけたのが冬なら、その巣はもう使い終
わっています。でも春先だったら、巣は子
育てに使われているでしょう。その時は、
そっと見守ってあげてくださいね。

